

# 栗田校長大いに語る



## 館高同窓会報



平成16年4月 新井市立商業高等学校 (定) 教頭  
 平成18年4月 群馬県立前橋高等学校 教頭  
 平成21年7月 群馬県立前橋高等学校 校長  
 平成23年4月 群馬県立太田東高等学校 校長

同窓会の皆様には、母校の教育活動にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。阿部芳夫前校長の後任となりました栗田裕樹でございます。伝統ある館林高校で勤務できますことを光栄に思うとともに、その責任の重さを痛感している次第であります。

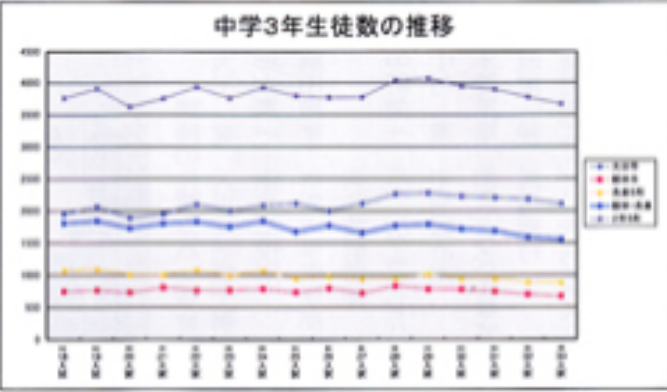
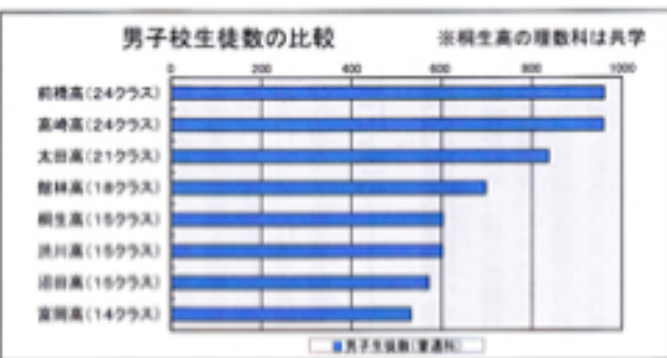
さて、これから「男子校」「進学校」「伝統校」の三つのキーワードをキーワードに、母校の状況について述べたいと思います。

まずは、「男子校」。平成18年度を初見とし、平成20・23年度及び今年度、定員(後期入試)を下回ってしまいました。地理的要因による県外への流出に加え、少子化による生徒数減少があります。そこで館林地域の高校が合同で学校紹介パンフレットを作成し、地



域内の中学三年生全員に配布しました。今秋には、地区の中学校長との情報交換会を初めて開催します。この地域の高校で学び、郷土に貢献する人材になってもらいたいという願いがあります。「男子校」としての本校は県内四番目の規模にあり、その活力の維持のためには一学年6クラス26名を守っていかねばなりません。将来を見据え、地域全体で一体化した取組が急務であると考えています。

次に「進学校」。四年制大学進学率が90%前後を行き来し、国公立大学については平成18年度の86名をピークに50名前後を維持していましたが、ここ何年かはそれを下回っています。一方、離開私立



大学については大いに健闘しています。週35コマ授業、そのうち習熟度別や少人数・選択制授業が半分以上を占め、生徒は朝学や課外等にも励んでいます。大学進路対策(出口対策)に終わりはありません。最後に「伝統校」。本校には創立初年から発行が続いている生徒会誌「大成」をはじめ、当時の写真や資料が多く残されています。資料をみると、二つのことが気になります。本校創立(起源)の基点(年代)と、開校記念日の位置づけについてです。前者については、館林中学校が創立された大正10年が基点となり、式典が実施されてきました。太田中学校の分校として設置された明治34年

はなく、11年後に分校が館林農業高校(現大泉高校)に改編されて廃校となり、廃校から9年後に創立(再興)できたこの年をもって基点としたことは何ら問題はありません。全国的には分校(その後独立)からはじまる旧制中学校は、分校設置の年をその地が創立年としています。しかし、創立(再興)前の20年の経過と館中同友会(後の賛助会員)の方々の努力が語り継がれなくなっています。このことは、この10年余り前から本校の開校記念日の記載が年行事予定から消え、5月17日がその日であることさえ、生徒も職員も知らないという事実と同じことであり、実に寂しい限りです。生徒にとって最も大切なことは、旧制中学校「男子校」の流れを汲む伝統校で学んでいるという誇りと自覚、そして郷土への責任を持つことです。来年度の行事予定表には5月17日を開校記念日と明記し、さらに記念式を実施し、できれば記念講演会を開催し、今後も館中館高の歴史と伝統の重みを繰り返し語りたいと思います。

あとわずか8年後に迫った、栄えある「館中館高創立百年(並びに館林分校開設百二十年)」という大いなる節目に向かって、これから未来を見据え、在校生とともに偉大な百年を目指して邁進して行きたいと思っております。

今後とも、同窓会の皆様方の温かいご支援とご協力をお願いいたします。



# 自信こそ思いやりの原点



同窓会長  
前山 秀樹

昨年、被災地石巻市を訪れました。この旅は、被災地の犠牲者の方々のご供養と震災を経験された皆様のお話を伺う目的で企画されたものでした。

市内に入ると、ニュース等で目にしたとおり、津波に流されて向もなくなくなった光景が広がり、破壊された学校の校舎や、数か所に積み上げられた無数の廃車の山がまがそのままに放置されておりまし

た。これらの車の中で命を落とされた方も多数居られたに違いなく胸を締め付けられ、思わず車中より合掌いたしました。犠牲者の方々の無念はいかばかりのものか想像を絶するものがありました。震災には、津波被害とともに、忘れ

てはならない原子力発電所の大事故があります。この事故の被害は今後幾世代にもわたり継続するかも知れず、ますます深刻度を増しております。今後、事態の解決に立ち向かえるのは、若い世代の方

しがあります。しかし現在は、若者が定職を得ることが困難な雇用状態で、若い人が自信をもつて

生きることが難しくなっていると

言われております。

今年、同窓会では近年力をつけている野球部のために、ピッチングマシンを贈りました。本校創立と同じ九十年の歴史を刻む野球部の活躍を願うことです。この新しい練習器具が、野球部の諸君の強い自信の原動力となってくれることを期待しております。

今、東日本大震災をはじめ、多くの災害が多発しております。このような時にこそ、他者への思いやりが必要とされます。そして、思いやりの心は、強い自信と自己肯定より生じます。本来の社会の担い手たる館高生のために、同窓会も力を尽くしたいと思っております。

## 平成24年度 開校記念講演会

昨年11月20日(火)、本校において開校記念式に続き、記念講演会が開催されました。



講師には、福山市立大学副学長奥山健二先生(昭37年卒)をお招きし、「露伴五重塔のつそり十兵衛と都市デザイン」との演題で講演をいただいた。内容は、自分に自信を持ち、コミュニケーションを大切にしながら、誇め

ずにかんばり続けることの大切を訴える、たいへん貴重なもので、生徒たちは、学問の道に進み、その中から身につけたOB奥山先生の人生哲学に感銘を受けていた。

## OBにゆめ 職業別進路講演会

去る6月7日(金)、「OBによる職業別進路講演会」が開催された。豊かな職業観・勤労観を養い、進路意識を高めることを目的とし、現在さまざまな分野で活躍されている9名のOBを講師として迎えた。内容としては、仕事の具体的な話及び仕事をすすめる上で必要とする

力、働きがいや仕事への誇りなどを中心に講演をいただいた。生徒からの質問も活発に行われ、それに真剣に答えてくれる先輩の姿を見て、館林高校生とほどうあるべきかということを教えてもら

い。今後は、お招きをした講師の方を目標に、社会人として大きく成長してほしいと感じた。



▽講師の先輩方△(敬称略)  
大平 寛 大平司法歯士事務所  
柿本真一 館林市役所  
嶋田博孝 群馬大学医学部附属病院放射線部

中野栄一 ホテルブランドパレス  
中村 喬 空間設計室  
本澤博幸 東武トラベル株式会社  
増尾 伸 群馬銀行  
増田泰文 ソニービジネスソリューション株式会社  
上原俊彦 館林厚生病院薬剤部

### 平成二十五年 同窓会本部役員

名譽会長	岩瀬 秀市	25年卒
参 与	笑口 昇	25年卒
	谷津 義男	28年卒
	松本 経司	38年卒
	安藤 一雄	41年卒
副会長	前山 秀樹	37年卒
顧問	栗田 裕	37年卒
	小嶋 泰男	26年卒
	山崎 悠	32年卒
	大塚 幸雄	35年卒
	河本 榮一	35年卒
	小嶋 洋次郎	36年卒
	鈴木 攻	37年卒
	大岡 光雄	38年卒
	山岸 勝美	38年卒
	遠藤 和昭	42年卒
	増尾 仁一	43年卒
	岩瀬 志郎	49年卒
	青藤 純一	52年卒
	栗木 宏和	教頭/全
	長谷川 充	教頭/定
	野村 博久	43年卒
	藤山 和弘	44年卒
	藤島 和夫	44年卒
	藤子 昭夫	事務長
	尾形 哲男	20年卒
	飯塚 好美	42年卒
	廣部 己行	47年卒
支 部 長		
東京同窓会	大隈 清道	29年卒
板倉支部	鈴木 攻	37年卒
太田支部	大杉 幸一	38年卒
館林支部	堀村 一男	43年卒
千代田支部	菅井 幸夫	41年卒
明和支部	小平 進	31年卒
足利支部	大塚 孝士	41年卒
館林支部	小嶋 洋次郎	36年卒
館林支部	遠藤 和昭	42年卒



# 各学年同窓会各部等の集い 報告

## 商業科(第五回)同窓会

昭和33年卒 齋藤 健一

卒業して早いもので54年。在校中に、新体育館完成、商業実践教室完成、直田昇校長、笠原治久校長、野木村浩先生、久保田利重先生、鎌田治男先生、奥沢徳治先生、田中直先生、石島勉三郎先生等々が思い出されます。級友で田口(神村)榮治君(剣道八段、範士、全日本剣道連盟審議員・試合・審判委員会委員長)より商業科の同窓会をやるとうい話が出て、商業科(第五回)の同窓会をやることになりました。同窓会は、昨年の12月9日(日)に館林市内で行いました。東京・埼玉・神奈川・千葉各方面より集まってくれた級友23名の宴でした。16名の物故者に、黙祷した後、宴になりました。大分長い間、会ってなかったもので、かつての、紅顔の美少年、?見る影も



なく白髪・禿頭にとまどっていました。アルコールが効るにつれて、だんだんうちとけ、昔日の学生時代に戻り、俺、お前、呼び捨てのひとときになりました。校歌を斉唱し、名残りを惜しみながら閉会しました。別れが辛い級友が殆ど二次会に出席し、館林市長安藤岡一雄氏も特別参加してください、賑やかなうちに、また元氣な再会を約束して散会しました。

## 拳志会(空手部)ゴルフ部会

昭和28年卒 小林 啓八

25年入学と同時に、空手部に入部しました。卒業後、25年卒の橋本貞夫さんが中心になって、拳志会ができ、年一回(現在は数年に一回)集まっています。新年会の席で、27年卒の三田成男さんとゴルフ談義をしているうちに、ゴルフをしようと話がまとまり、早速六月にヒルクレストGCでプレーをしました。秋には、寄居CCで第二回目をを行い、プレー後のパーティーで、年二回プレーすることを決め、コンペの名称を拳志会ゴルフ部としました。現在15年から16年続いています。現在の会員は25年卒橋本貞夫さん、27年卒三田



館高空手部(昭和24年夏の訓練)



## 24年度 館高同窓会総会風景

成男さん、横塚昭三さん、28年卒笠原英樹、大野喜郎、私の六人と友人の28年卒山崎浩志、曾根利夫、中村貞夫各氏の9名の皆さんです。毎年二回プレーしていますが、今年は、10月28日寄居CCで決定しています。全員高齢ですので、

一年でも一回でも多くをモットーにプレーしています。別件ですが、今年の5月には、邑楽支部のグラウンドゴルフ会に東京同窓会より萩野秀文さんと、谷田部和之さんの参加を得て、楽しくプレーして親睦を深めました。



# 支部だより

## 館林支部

### 日本一HOTなまち館林

支部長 遠藤 和昭

猛暑襲来！7月7日(日)朝日新聞一面トップ、梅雨が明けると全国一の暑さ37.4度を館林で記録、太平洋高気圧に覆われ気温が上昇した。館林では商工会議所主催ゴルフ総選挙と銘打って、この暑さを乗り切ろうと地域の食を生かして5店舗が参加し、グルメ食べ比べによる熱い戦いが繰り広げられた。7月7日の七夕伝説は多くの人が知っていますが、織姫と彦星が夫婦だと知っている方は少ないと思います。二人は働き者だ



つたが、結婚してから機織と牛飼いの仕事を怠けるようになり、天帝の怒りを買って引き離された星合の物語……。

支部総会を3月27日(水)、二ユーニヤコホテル館林を会場に、ご来賓、各地区支部長、会員44名の参加で開催しました。年に一度両会できる一時です。この機会を楽しみにされている方も大勢おられます。同じ地域の同級生の集いは、熱いつながりとなっています。

## 千代田支部

### 後輩の健闘を祈る

支部長 武井 章良

当支部は、例年9月に総会を行います。また、親睦を図る行事としてゴルフとグラウンドゴルフを行い、大いに楽しんでいます。今後も会員同士の親睦を図るため、若い会員の方々の参加を働きかけながら、更に充実したものにしていきたいと思っています。

さて、私の個人的なことですが、高校野球が好きで、各球場に出かけスタンドから応援しています。今年の夏の大会は二回戦で利根商に2-3で惜敗しましたが、選手たちは力を十分に発揮し立派に戦いました。ベンチ入りできなかった選手や保護者の皆さん、吹奏楽

## 邑楽町支部

### 同窓登山の魅力を語る

支部長 大塚 孝士

主要事業の一つ第11回グラウンドゴルフ大会(年一回)「春大会」が平成25年5月26日(日)に開催し、急傾の東京支部から二名の参加があり、交流を深めることができました。これを機会に、他支部との共通する事業で無理のない程度

部員や一般の生徒たちが一体となった応援は、球場中が地鳴りのするような声で見事なものでした。選手の皆様にとつて、あの応援の中で試合ができたことは一生の思い出になるとともに、最高の幸せなことだっただけだと思います。ご指導くださった監督の新井先生、部長の委文先生に心より感謝いたします。同窓の皆様さん、これからの館林高校の発展のため、陰に陽に大いに応援していきましょう。

## 板倉支部

### 小さな努力の積み重ね!

支部長 鈴木 政

平成24年度支部総会・懇親会が大勢の来賓ご臨席のもと2月11日(月)に催されました。毎年若い会員の参加を呼びかけておりますが、今年も二人の方が初めて出席

度の交流が逐次促進されていけば、同窓会として大変意義あることになりそうです。



また、町の生涯学習事業の一環で町民教育講座「知識の広場長柄」が平成24年11月17日(土)に公民館で開催され、講師には昭和25年卒の高田智博さんが「登山の楽しさ、登山から学ぶこと」と題

されました。聴衆26名でしたが、継続していけば先行き明るい希望が持てると思っております。当支部は、とりたててこれといった活動はしていませんが、学校主催の50km強歩大会には、毎回14、15名が参加し、自分達の体力維持を図るためにも頑張っています。しかし、今年も残念ながらそれぞれの事情で選手を送り出すことができず棄権せざるを得ませんでした。又、本部主催の総会やゴルフコンペ、各支部の総会には積極的に参加させていたたいしております。

して映像をまじえながら講演。高校はワンダーフォーゲル部、大学は山岳部に所属、会社勤務の傍ら社会人クラブに入り、年間1000日を超える登山に熱中し、二重海外遠征し、7、000m超超級峰を経験。まだこれからも次の山を目指し前進するその姿は聴衆を魅了し、万雷の拍手はしばらく止まらなかつた。



## 大泉支部

### 館泉会五十周年

館泉会会長代行 稲村 一男

館泉会は今年50周年を迎えることになり、例年の総会、親睦会に加えて11月に記念行事を予定しています。その他主な行事は、春秋のゴルフ大会、グラウンドゴルフ大会、納涼会などを予定しています。春のゴルフ大会では16名参加し、13名がグロスが2桁というレベルの高い大会で賑わっています。今年50周年を迎えますが、その歴史の中で先輩たちが作り上げたこの会を、若い人たちの参加を積極的に図り、次の世代に引き継いでいこうと思っています。



## 楽しかった40年代

松原 茂樹先生  
(昭和45年度卒業アルバムより)

教え子から定年退職の連絡を受ける年齢になって、退職して10年以上が過ぎた実感と現役時代の授業内容を思い出し、赤面とどろろか穴があったら入りたい気持ちです。あの授業はこう説明したらもっとわかりやすかったのに、と後悔ばかり。若かったので「無茶苦茶」なことをして、常に迷惑をかけて

## 恩師登場

## 昭和50年代の思い出

針谷 賢先生  
(旧姓渡辺)

館林高校に赴任したのは、昭和51年であった。卒業生として母校を盛り上げたいとの思いが強く、クラス担任、生徒指導、部活動など何事にも目標に向かって突っ走っていたことが思い出される。58年度を控えて部活動も盛んであ

申し訳なく思います。

40年代は楽しいことばかりが思い出されます。伊豆大島、上高地、美ヶ原、館山にキャンプに出かけ、夏休み冬休みはなくなり、伊豆大島でのキャンプの時は、めずらしい「ワシ」を見た時、そこでキャンプ生活をするアベックがいて、ここはワシで雨が降ると川になりやすよと注意したのに、「うるさい」と言われたが、その夜雨が降ったので、井野口君とテントの場所へ行ってみるとテントは半分埋まっており、教科書にある「砂漠で溺れ死ぬ話を思い出して自問は一見にしかず」と納得。そして彼等も定年になり、時々電話を打来宅してくれるのが、今の唯一の楽しみでした。

た。サッカー部は、かつては全国大会で入賞するなど強豪校でその伝統を引き継ぎ、50年代はベスト4の常連校となり、群馬テレビで試合放映もされた。県高校総体でも優勝、関東大会に二度出場し4名の優秀選手が選出された。

また、国体強化策として無協会主催で中学生・高校生を集めてトレーニングセンターを開設し、中高一貫指導を行った。その後のトレスン指導の結果、小島伸幸氏、故松田樹樹氏、現代表の細目勇選手など多くの日本代表選手を輩出するなど、群馬が全国トップレベルとなっていた。

昭和54年から始まった50km強歩

## 明和支部

## 郷土の歴史街道「川俣宿」

支部長 小平 進

当支部では24年度総会の特別企画として、昭和38年卒業で川俣の塩谷正久氏を講師に「日光臨往還川俣宿の歴史について」講演をしていただきました。川俣宿は武州新郷より船で利根川を渡り、館林の城下を通り日光へ通じる拠点であり、日光へ参詣する人々で大変栄えた宿場です。また田山花袋ゆかりの「土手の家」もあり、田舎教師小林秀三先生も川俣宿周辺を散策したのではと想いを巡らしてまいります。時代の変化をみつめ、今ひっそりとした佇まいの川俣宿が、歴史の表舞台を演じていたことに深い想いを抱きます。現在この街道は122号線として東京へのバイパスとなり、川俣駅とともに新しい文化や情報を伝える経路としても大きな役目を果たしています。私たち同級生もこの地から日

大会。当時実行委員会と体育科が中心となり、コースの設定など様々な事務を検討してPTAと全職員との協力を得て行った。事故もなく無事終了して、安堵したものでした。

勤務して10年、自分なりに精一杯だったことが思い出される。

本や世界各地へ発信していきたい。まさに感無量です。母校館林高校の発展と同級生のさらなる活躍を期待します。

## 東京同窓会

## 活発に交流活動

副会長 曾田郁和之

東京同窓会は、毎年10月の総会でスタートします。4月に親睦懇親会、7月に納涼懇親会、11月にゴルフコンペ、2月に会報発行を実施しています。会報は首都圏在住のOB約千七百名にお届けしています。こうした中で、5月26日(日)に商業同窓会のグラウンドゴルフ大会に参加しました。同級生との何年ぶりの再会の場となり、会話が弾み楽しいひと時を持つことができました。また、昨年始まった「東毛三高会」(館高・相高・本高)が6月21日(金)に開催されました。今年は館高が幹事で、初めて講演会も実施。講師は館高OB小暮剛一氏(前39年卒)でした。小暮氏は元流通工業大理事長で、現在上海日本人学校の運営委員会委員長として、日本と中国を往来する日々です。

## 太田支部

## 集まりは健康の証

支部長 大杉 幸一

太田支部は、平成3年に新田・太田地域在住者の声を反映させようと、矢田堤町の岩崎健典氏のご尽力によって支部が結成され、今回で25回を迎えました。支部総会は2月に太田グランドホテルにて開催され、監事選出、総会の開催時期について協議しました。支部の活動は、総会と懇親会が主であり、本部親善ゴルフ大会と本部総会に協力しているのが現状です。過去に講演を設定したこともありましたが、今日では参加者が少なく難しい状況です。少子化による生徒の減少により、入学志願者の定員割れについて同部長より話され、心配しているところです。子供達が来て良かった学校、父母からは行かせて良かった学校、職員として在籍して良かった学校、東毛地域に根ざしている母校を願うところです。

同部長と前山同窓会長から、母校の現状と同窓会行事について語られ、在校生と卒業生の頑張っている様子が伺われました。

皆健康で再会し、いつもながらの旧交を深められ、有意義な総会と懇親会になりました。



## 懐かしいOB登場

## 生涯剣道

33年卒 田口 榮治



卒業と同時に、警視庁に奉職した。一年間の初任教養を終え、富坂警察に新任配置となった。

愈々首都の治安秩序維持に従事することになった警察官は、未だに忘れられない。

郷里の大先輩の堀口満先生(当時師範)のお声掛けで、勤務の傍ら群馬県出身の永井氏が経営する「妙義道場」の早朝稽古に参加することになった。当道場には、群馬が生んだ昭和の剣聖と仰がれる持田威二先生や著名な先生方が汗を流していた。

警視庁は、職務に対し、美、剣道何れかを正課として義務付けている。これに伴い「武道専科」と云う指導者養成機関がある。35年合格、小川、森島両師の慈愛に満ちた鍛錬を戴き卒業。専門家としての一歩を記した。教員、師範、主席師範を経て、平成11年退官し名譽師範を拝命。同時に衆議院議員、21年には主席講師を拝命。全

剣道関係では、平成元年から各種委員会を歴任し、現在審議員、剣道士八段。また各国の要請で十数カ国を歴訪指導に当たった。いずれにしても古橋を迎えた現在、伝統と文化に培われたすばらしい剣道が出来ると喜びを味わっている。

## 世界の水問題

## 解決への貢献

34年卒 栗原 優



法学部を出て弁護士を夢見た高校生活から、化学を専攻する大学生に変わった。石油化学の黎明期で合成化学による新物質、新素材を作った社会に貢献したい気持ちが強くなった。会社での最初の研究テーマは、宇宙開発に使用される「耐熱性高分子の合成」であった。

世界のトップレベルでの研究開発競争がどういふもので、その苦しみと楽しさを経験した。米国への博士研究員留学の機会に新しいテーマに挑戦した。教授から米

国政府資金に基づく「海水淡水化膜素材の研究」に着手できる機会をいただいた。これ以来43年経過したが「海水淡水化膜」は一貫して私のライフワークになった。海水淡水化膜の研究・開発・事業化を実現し、グローバル市場の成長に伴い世界一の市場シェアを達成した。平成21年、5年で世界のトップを目指す内閣府の「最先端研究開発プログラム」に日本全国から応募のあった研究者からトップ30人(中心研究者)に選ばれ、研究開発を推進している。日本の産業の中長期的国際競争力強化を図り、研究開発成果が、国民及び社会へ様々な形で広く還元すると同時に、世界の水問題解決に大きく貢献することを果たしたい。

## 挑戦!!

40年卒 齊藤 要



私は商業科卒。現在の母校には商業科がないのはとても寂しい気がしております。当時の商業科は進学の重圧もなく、部活等に励み授業中も変な競争意識もなく、友と助け合い、その精神は67才になった今でも同級生の中で生きてお

り、本当に楽しい高校生活でした。同級生のほとんどは実家の跡を継いだり、就職でしたが、私は恩師、安藤三先生の影響で、中央大学に進学。卒業後東京に就職しましたが、兄の急逝により実家に戻り、それからは世間様のお世話になり自営の道を歩いて来ました。私達の真しかった時代から今は飽食、使い捨ての時代かもしれませんが、人間の可能性は無限にある様に思います。在校生諸君には是非多くの本に親しみ、立派に生きて先人の生き様に触れ、自分自身に負けずに、常に目指す所を明確にし、努力を続けていただきたいと考えます。人は死ぬ時が終りの時です。前進しながら友と助け合い、仲間との楽しい時間を持つよう心懸けると、必ずや素晴らしい人生になると考えます。マラソン大会が終わり、「今日のレースはキツかった。」これが最高の言葉です。

## 自己啓発の大切さ

51年卒 河村 博



現在、東京・丸の内にある国際シティホテルに勤務しています。

大卒で入社し、早や32年が経ちました。一流のホテルマンを想像されるかもしれませんが、実はそのキャリアの大半が人事・総務・経理・購買などの管理系の部門なのです。すなわち「人・物・金」を管理する部署です。とりわけ人事畑が長く、社員の新集から退職に至る、様々なステージをサポートしてきました。

ホテルは「人材」で成り立っています。そのサービスのレベルがホテルの評価を決定すると言っても過言ではありません。そのため人材育成は人事の大変、重要な役割なのです。

「ホテル」の能力は主に①インテリジェンス(知識・教養)②タレント(技能・技術)③エクスプレス(経験)から形成されています。人事部等が行う集合研修やOJTあるいは配属・異動などの人事政策で、その能力を担保するには、限界があります。

一流の「ホテル」になるためには、プラス自己啓発が欠かせません。どんな職業人でも同様でしょうが、その道を極めるには自己啓発という不断の努力が必要なのです。ホテルは専門職の集団ですが、その一人一人が知識・技能を磨くことで、顧客満足に邁進するべく、自らが築き上げられるのです。

この自己啓発とは、言うほど簡単なことではありませんが、人生の重要なキーワードとして、船55を過ぎ、自らにも問い直す許今です。



### 手打ちそば

25年卒 小林 新内



## 私のいきいきライフ

—たのしむ—

### 書くひん

26年卒 川田 賢一

私の父は書展の一回目から審査員をするなど、若いときから書家として活躍しましたが、わたしは、書にあまり関心を持つこともなく、父から書の真髄を聞いたたり、習ったりすることもほとんどありませんでした。

父が亡くなってから、残された沢山の作品や筆・墨・紙などを見て、もったいないと思う「すしこしすし書きはじめました。」



20年近く前、ひよんなことから手打ちそばを始めた。公民館の事業の中に「男性料理教室」が開講され、立場上志願なく入会する羽目になった。当初、講座では惣菜やケーキ作りなどと一緒にそばも扱っていた。講師は各地でお店を構えるそば店の店主で、講師二〜三回のコースだが、結局5人の講師の指導をいただいた。

今10人ばかりで「書を楽しむ会」というのをやっていますが、実態はなかなか楽しむところまでいかず、西しむ会のような感じです。その原因はとも小学校の書道教育にあるように思います。多く



講座は手打ちそばの歴史から道具などひと通りの常識から始まり、いかに薄く、いかに細く長くつなげるが、旨く食べるためのコツだった。つゆの作り方までにまたがった。おかげ様でそば談義をしながらどうにかそば打ちを楽しむことができるようになった。

### 小さな歩み

—創作活動—

28年卒 大川 三男



昭和25年4月、私は館高へ入学した。学風に馴れてきた頃、部活動の必要を迫られた。迷った挙句、中学時代の先輩がいた文芸部に入った。当時は「戦高時代」という部誌が年間二冊程のペースで発行されていたが、顧問の森猛先生の人が論議について、劣等感を植え付けられて、それがトラウマとなっていて一生を支配しているような気がしました。

子どものあらゆる可能性を伸ばしてやるのが教育の原点であると言われるけれども、現実には子どもをためにする教育が今も昔も横行しているような気がします。

今では世代を超えた20人の仲間と「そば道場」という会を組織し、月に一度の定例会を楽しむかたわら、町の老人福祉施設にもみんなで行き、利用者に手打ちそばを振舞っているが、大変喜ばれている。

指導の下、小説まがいの文章を何編か書いた。因みに森猛先生は現在も群馬県文学界の重鎮として健在で、私は半世紀にわたり薫陶を受けている。とまれ三年間の文芸部員生活は充実そのもので、卒業を控えた春には校友会機関誌の「大成」に小説を載せることができた。

短大の国文科へ進んだ私は、館高時代から詩を書いていた清水茂雄君と、同人誌を発行したりした。そして卒業と同時に森猛先生を中心とした同人誌「階段」が発行され、私も自伝作を寄せることができた。

就職先(群馬県土木部)の仕事に埋没せざるをえなくなり、一時書くことから遠のいてしまったが、腰を据えて書きはじめたのは、定年を過ぎてからである。上毛新聞の常編小説欄に二〇編を超える作品が掲載され、その内の一編が年間優秀賞を受けた。そして今年の春には、上毛文学賞(小説部門)の栄に浴することができた。創作意欲は、傘寿を控えた現在も衰えていないようである。

### 【同窓会ゴルフコンペ】

第13回館林高校同窓会総会ゴルフ大会が5月8日(水)板倉ゴルフ場で開催されました。朝日の強風も止み、穏やかなゴルフ日和でした。97名のプレーヤーで競技が行われました。今回優勝の山田申さん、ベスト口の相澤繁光さんは34年卒の同級です。成績は次のとおりです。(敬称略)

- 優勝 山田 申(館林) 708
- 準優勝 渡辺 友次(館林) 708
- 第3位 堀部 寛(館林) 708
- 第4位 渡部 和昭(館林) 710
- 第5位 金子 一(館林) 714
- ベスト口 相澤 繁光(館林) 78

### ○歴代優勝者

- 第1回 大隅 光雄(館林)
- 第2回 三田 成男(東京)
- 第3回 赤坂 宏(館林)
- 第4回 小久保 清(千代田)
- 第5回 荒井 昭(東京)
- 第6回 相澤 繁光(館林)
- 第7回 高澤 詩雄(大田)
- 第8回 相澤 健志(東京)
- 第9回 龜山 進一(館林)
- 第10回 廣井 榮作(館林)
- 第11回 野村健一(二九福)
- 第12回 龜山 進一(館林)

### ●来年のゴルフコンペ●

期日 平成26年5月14日(水)  
会場 板倉ゴルフ場

※参加申し込みは同窓会事務局へご連絡ください。案内状をお送りします。



# 館高Now

## 第32回大成祭

### 男子の意気込みが光る

去る7月13日(土)・14日(日)の二日間、第32回大成祭が開催された。今回のテーマを「躍動」・スローガンを「跳・び立とう館高から」とし、各クラスが個性溢れた企画を行い、多くの来場者にすばらしい文化祭を体感してもらったことで、全ての生徒、職員が達成感・充実感を感じ取れた大成祭となった。

開会式では、この日のために作製したクラスTシャツを身にまとった生徒たちが体育館に集結し、クラス企画の紹介を行った後、伝統の「やるぞ宣言」で気合が入られ、大成祭は幕を開けた。

この日のために試行錯誤しながら準備された企画は、教室だけではなく、第1・第2体育館や中庭のステージでも繰り広げられ、多くの来場者が館高生のパワーに圧倒された。晴天にも恵まれ、大きな事故等もない中、「男子の意気込み」が光る。と校歌の歌詞にもあるとおり、館高生を見事に体現し、二日間の来場者が1982名と、大成祭は大成功を収めた。

#### 〈クラス企画人気投票〉

- 1位 2年1組 お化け屋敷
- 2位 3年3組 お米戦隊スライムハンジャー
- 3位 2年4組 みんなで学ぼう

#### 〈来場者アンケートより〉

- ・学校全体が活気があって、楽しかった。
- ・呼び込みの気持ちがよく伝わってきた。
- ・どのクラスの生徒さんも礼儀正しかったので、とても感心した。

#### ●定時制だより

4月9日(火)の午後4時半から、定時制の「入学式」が挙行されました。今年度は18名の新入生を迎え、在校生と合わせて総勢63名でスタートしました。学校全体としては相変わらず落ち着いた雰囲気であり、ほとんどの生徒が昼間の仕事の疲れも見せずに、授業に集中して取り組んでいます。

さて、今年の定時制ですが、例年通り基礎学力の徹底、基本的な生活習慣の確立を目標の中心に据えて、生徒一人一人に個に応じたきめ細かな指導をしています。65周年を迎えた「開校記念講演会」では、本校0日である飯倉町教育委員長の増田靖夫先生(昭和39年卒)をお迎えし「生かされてもう古橋に」と題して講演をいただきました。先生ご自身の定時制在学当時の出来事や想い、その後の半生を語られ、「吾以外 皆教師」の生き方、「努力すれば夢は叶う」という姿勢は、生徒たちに生きる勇気と努力する力を与えてくれました。また、昨年から行われている「つつじが岡公園での「つつじの子房摘み」のボランティア活動、館林自動車教習所を会場として講義が行われる「交通安全教室」などの行事にも、生徒は意欲的に取り組んでいます。

国公立大学(合格者数)	
筑波大	2
群馬大	13
埼玉大	5
信州大	1
前橋工科大	1
高崎大	1
合計	23名

私立大学(合格者数)	
獨協大	9
青山学院大	2
学習院大	2
駒澤大	2
芝浦工業大	5
専修大	9
中央大	5
東京電機大	7
東京理科大	4
東洋大	15
日本大	21
法政大	6
明治大	7
明治学院大	2
立教大	5
早稲田大	2
同志社大	2
関西大	2
他	1
合計	402名

今年3月の卒業生239名の進路決定状況は、4年制大学196名(国公立大学22名、私立大学174名)、短期大学1名、専門学校15名、企業1名、進学努力継続者26名となっています。

合格者が多かった大学として、帝京大24名・埼玉大21名・日本大13名・大東文化大17名・東洋大15名・日本工大13名・国士館大13名・城西大12名・文教大11名などとなっています。難関大学については、筑波大学・早稲田大学・明治大学・青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学・学習院大学などに合格しています。

今年度の大学入試センター試験では、平均点が大幅に低下した科目が多く、受験生の資格志向や国公立大学志願者の地元志向の影響で苦戦が強いられ、国公立大学合格者数は、昨年度と比較し11名減少しました。私立大学では、センター利用入試での合格者が大幅に増加し、合格者数は昨年度と比較すると全体で7名増加しました。

#### 進路先状況

	( )内は前年度
国公立大学	22 ( 30 )
私立大学	174 ( 162 )
短大	1 ( 0 )
大学校・留学	0 ( 0 )
各種・専門	15 ( 15 )
就職	1 ( 0 )
自営	0 ( 0 )
進学努力継続	26 ( 29 )
合計	239 ( 236 )
進路決定率	89.1% ( 87.7% )
大学進学決定率	88.2% ( 86.9% )

推薦入試については、指定校推薦は昨年度と同様、29名の出願者全員が合格しましたが、国公立大学の公募推薦合格者は7名でした。AO入試の合格率は33.3%と低く、合格には十分な対策が求められます。

現2年生の数学・理科において、現1年生では全教科において、新教育課程が始まっており、平成27年度の大学入試センター試験から大幅な変更がなされます。

こうした変更を含めて、受験に関する情報を早期に把握し、生徒一人一人の進路目標の達成が図られるよう、全教職員で指導していきたいと考えています。

## 進路状況



# 部活動状況

## 部活動総括

今年度の高校総体には15競技が参加し、総合第28位(27・0点)と昨年度の順位を下回った。

本大会は特にレスリング部の活躍が顕著であった。フリースタイル・グレコローマンスタイルで8階級を制覇し、寺田(光)・増山・中谷・萩本・木村・齋藤・田口・佐々木・寺田(有)・小島(10名)が関東大会出場を決め、総合で2年連続28回目の優勝を飾った。インターハイ予選では2年連続38回目の本戦出場を決めた。インターハイ・国体とも5名の出場が決まっており、上位入賞が期待される。

ボート部はダブルスカルで山岸・永田組が関東大会2位、さらに国体出場も決めており、インターハイで入賞を狙える位置にある。陸上競技部は清水、水泳部は大野・星野がそれぞれ関東大会出場を果たした。

文化部の活動も活発である。科

# 館高Now

学部(34名)、美術部(6名)、情報処理部(33名)、JRC部(26名)など多くの生徒が所属し、目標を持って活躍している。文武両道を実践する本校生徒の活躍がさらに期待される。

## 【レスリング部】

今年度は、3年生4名・2年生7名・1年生5名の総勢16名でスタートしました。

学校対抗戦では、昨年度末の全国選抜大会で久しぶりのベスト8となりました。インターハイ本戦では優勝を目指して、頑張らせたと思います。個人対抗戦では個々が目標を掲げ、その目標を達成するために、自らが考え、勝つための行動を選択しております。

今後も、諸先輩方の期待に応えられるよう精進するとともに、レスリングを通して、地元の戦力となる人材を育成していきたいと思っております。

## 【陸上競技部】

今年度は計26名で活動しています。県総体では清水祐輝が400mにおいて自己新記録で3位と、昨年に続き関東大会出場を決めました。関東大会出場は逃したものの、400mと1600mの両りしーでは7位と、チームの記録を大幅に更新しました。

また、昨年の県高校駅伝では6位入賞して2年連続の関東大会出場、関東では過去最高順位を残すことができました。県・関東と第1区で奮闘した橋本滯は、今年1月に開催された全国都道府県対抗男子駅伝でも群馬県代表として第

1区を任されました。先輩の後を受け継ぎ、今年は3年連続の関東大会出場をと意気込んでいます。人間性を高め、伝統ある本校陸上競技部を更に発展させられるべく、日々精進して参る所存です。

## 【硬式野球部】

今年度は3年生16名、2年生19名、1年生24名の計59名で活動を開始しました。

今年の3年生は飛び抜けた選手はいませんが、入学直後の1年生大会で本校初の県大会出場を果たしました。しかし、度重なる故障によるコンバート等で経験値を積み上げられませんでした。このような状態でも選手は全力を尽くし、昨秋、今春、夏と上位進出はできませんでしたが、全て初戦突破を果たしました。新チームは3年生の悔しさや反省、課題を引き継ぎ、「できることを徹底すること」を意識しながら練習に励んでいます。

また、今年度は同窓会よりピッチングマシンを購入して頂き、これまで以上に効率的な練習ができるようになり、本当にありがとございました。

## 【ボート部】

今年度は、3年生4名、2年生3名、1年生3名の計10名という少人数ながら、力を合わせて日々

練習に励んでいます。

今年度は、四人で漕ぐ舵手付クワドルブル、二人で漕ぐダブルスカル、一人で漕ぐシングルスカルと全ての種目にエントリーできました。関東大会ではダブルスカルが2位、舵手付クワドルブルが4位と二種目で入賞し、関東ブロック大会では、ダブルスカルが1位となり国体出場権を獲得しました。この結果に満足せずインターハイ、国体と全国で入賞できるように頑張りたいと思います。

## 【弁論部】

三年前の7月17日に校内弁論大会が復活し、一昨年は10月5日に、昨年は10月3日にそれぞれ実施することができ、今年の10月2日で第四回を数えます。

校内弁論大会のほかには、9月21日に、本校同窓会、弁論部OB会(井松会)からも後援をいただいたき、第61回全国高等学校校決弁論大会を実施することができました。現在、3年生部員1名に加えて、1年生2人を新入部員として迎え活動しています。

更には、毎年5月、東海高校にて行われる全国高等学校弁論大会での上位入賞と、11月に実施される群馬県高等学校弁論大会での上位入賞を経て初めて出場できる、全国高等学校総合文化祭弁論部門への出場を果たすため、日々努力を重ねています。

## 平成25年度群馬県高等学校総体大会結果報告

- 【レスリング】
  - 学校対抗戦 優勝
  - 個人対抗戦 F50 塚城1位 寺田(光)
  - F65 塚城1位 増山
  - F60 塚城1位 萩本
  - F65 塚城1位 木村
  - F64 塚城1位 田口
  - 関東出場10名
  - インターハイ
  - 1回戦敗退
  - 2回戦敗退
  - 3回戦敗退
  - ソフトテニス
  - 団体ベスト16
  - 【山岳】
  - 1部出場8位
  - 1回戦敗退
  - 2回戦敗退
  - 【卓球】
  - 団体2回戦敗退
  - 個人(シングル) 5回戦1名
  - バスケットボール
  - 1回戦敗退
  - 【バドミントン】
  - 団体2回戦敗退
  - 個人(ダブルス) ベスト32(高木、池上)
  - 【テニス】
  - 団体2回戦敗退
  - 【空手道】
  - 個人(形の部) 2回戦2名
  - 個人(組手の部) 2回戦2名
  - 【陸上競技】
  - 400m3位 清水
  - 4x100mR
  - 4x400mR 7位
  - 【水泳】
  - 2回戦敗退
  - 100m200mバタフライ(山岸)
  - 【硬式野球部】
  - 春季大会3回戦・沼田10-0 敗退
  - 選手権大会2回戦・利根橋3-2 敗退
  - 【ボート】
  - 関東大会 ダブルスカル(山岸・永田) 2位
  - 舵手付クワドルブル 5位
  - 【弁論】
  - 第61回全国高等学校校決弁論大会(東海高校)出場



# 今年の館高同窓会(総親睦会)は11月9日(土)

## ～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で15回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合ってお出かけください。

好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事 昭和55年卒業生たち



↑新本部役員紹介風景(昨年の総会で)

日時:平成25年11月9日(土) 午後5時

会場:ジョイハウス (TEL.0276-73-4669)

○参加券は総会幹事(下記)、本部役員、支部長さんからお求めください。

(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

### 平成25年 総会幹事

29年卒 新井 耕一	30年卒 山口 勝巳	31年卒 川生 宏	32年卒 岡野 上	33年卒 藤田 十哲	34年卒 山田 申	35年卒 大塚 幸雄	36年卒 宮内 敦夫	37年卒 堀田 秀雄	38年卒 白井 佳良	39年卒 小宮 睦雄	40年卒 伊藤 良三	41年卒 柿田 静一	42年卒 渡藤 和昭	43年卒 野村 博久	44年卒 金子 重雄	45年卒 津布 久満	46年卒 早川 元久	47年卒 山岸 雅彦	48年卒 大沢 孝	
49年卒 荻野 次雄	50年卒 河内 初光	51年卒 西藤 一美	52年卒 石井 良雄	53年卒 藤橋 博	54年卒 堀田 勝	55年卒 堀山 憲臣	56年卒 堀山 憲臣	57年卒 和田 千明	58年卒 高橋 敏	59年卒 横山 哲也	60年卒 横山 哲也	61年卒 清水 深夫	62年卒 飯塚 好美	63年卒 藤田 道幸	64年卒 堀田 謙一	65年卒 堀田 謙一	66年卒 久保田 康也	67年卒 井出 康弘	68年卒 原 康浩	
69年卒 増山 芳弘	70年卒 手島 和雄	71年卒 長谷川 正博	72年卒 小林 廣吉	73年卒 初谷 寛敏	74年卒 初谷 寛敏	75年卒 初谷 寛敏	76年卒 初谷 寛敏	77年卒 初谷 寛敏	78年卒 初谷 寛敏	79年卒 初谷 寛敏	80年卒 初谷 寛敏	81年卒 初谷 寛敏	82年卒 初谷 寛敏	83年卒 初谷 寛敏	84年卒 初谷 寛敏	85年卒 初谷 寛敏	86年卒 初谷 寛敏	87年卒 初谷 寛敏	88年卒 初谷 寛敏	89年卒 初谷 寛敏

### 事務局より

- 総会幹事をご推薦ください。上の総会幹事の中で、空欄のある学年は補充する方をこの欄にお願いいたします。よろしくお願いたします。
- 次回の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送り下さい。
- 座番付
- 座名
- 群馬県立館林高等学校同窓会事務局は、
- 今年度の事務局員は、
- 湖山、和泉、齋藤、堀田

90年卒 池田 知	91年卒 中里 和典	92年卒 池田 勝也	93年卒 池田 勝也	94年卒 池田 勝也	95年卒 池田 勝也	96年卒 池田 勝也	97年卒 池田 勝也	98年卒 池田 勝也	99年卒 池田 勝也	00年卒 池田 勝也	01年卒 池田 勝也	02年卒 池田 勝也	03年卒 池田 勝也	04年卒 池田 勝也	05年卒 池田 勝也	06年卒 池田 勝也	07年卒 池田 勝也	08年卒 池田 勝也	09年卒 池田 勝也	10年卒 池田 勝也
11年卒 池田 勝也	12年卒 池田 勝也	13年卒 池田 勝也	14年卒 池田 勝也	15年卒 池田 勝也	16年卒 池田 勝也	17年卒 池田 勝也	18年卒 池田 勝也	19年卒 池田 勝也	20年卒 池田 勝也	21年卒 池田 勝也	22年卒 池田 勝也	23年卒 池田 勝也	24年卒 池田 勝也	25年卒 池田 勝也	26年卒 池田 勝也	27年卒 池田 勝也	28年卒 池田 勝也	29年卒 池田 勝也	30年卒 池田 勝也	31年卒 池田 勝也

### 原稿募集

私からあなたへ

皆さんが楽しみにしている、特刊「私からあなたへ」の紹介をお願いいたします。特刊「私からあなたへ」は、その面白さ、新鮮さ、面白さ、感動的な記事です。

また、そのよさな友人(同窓生)を知ってましたら事務局へご連絡ください。

原稿は、タイトル、年次、氏名、本文を適切な用紙に書いて送ってください。本文の字数は、写真や図表ありの場合は400字以内、なしの場合は500字以内。

送付先は同窓会事務局へ。締め切りは25年4月末日

### 編集後記

今年5月、4年ぶりに会報編集委員にカムバックしました。4年前仕事の都合で鈴木優前編集委員長に変わっていただいた関係もあり、今回はその逆で前委員長の変わりを私が引き受けることになりました。会報に関するご意見や原稿等をいただければ幸いです。今回ご寄稿いただいた同窓各位にお礼申し上げます。ありがとうございました。(鈴木 実)

編集委員(鈴木、山岸、渡藤、岩瀬、斉藤、藤倉、藤部、湖山、齋藤)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会  
〒374-0041 群馬県館林市富士町二二四一  
TEL 0276-7311000  
FAX 0276-7311000